



謹賀新年

本年もよろしく願っています。



令和五年、新年明けましておめでとございます。

今年のお正月は、昨年と打って変わって、雪のない元日を迎えることが出来ました。皆様には、ご家族揃って、穏やかな新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻から始まり、今の時代には考えられない、そして信じられない悲惨な戦争が続いています。本来なら、温かい住まいの中で家族がクリスマス、年末年始を幸せに過ごしていたはずなのに、本当にひどい現実が今も続いています。そして、コロナ禍も収まることなく、第8波を迎え、身近なところでも感染が広がっている状況です。こんな、暗い話にしかならない一年でした。

宿南地区自治協議会の取組みについても、運動会と文化祭の開催について、コロナ感染を危惧して、中止を余儀なくされました。しかし、体育部では、ボウリング大会、村民号の出雲大社参拝、文化部では文化祭に代わる、宿南の魅力発見フォトコンテスト、福祉部会でもクリスマス会の他に、奉仕作業やふれあい倶楽部の大掃除など地域の皆さんのご理解とご協力とご参加を頂き実施することが出来ました。また、昨年もトライやるウィークで宿南の中学2年生の二人に自治協の取組み体験をしてもらいました。二人は、「宿南の人達は優しく、自然に恵まれている、そんな宿南が大好き。」と話してくれました。そして、村民号でも、子供達の初参加がありました。文化部で文化祭の会議をした際に、開催に賛成の意見として、「自分が子供の時に経験した文化祭の思い出を子供達に伝えたい。」というのがありました。今回のふるさと宿南にも掲載していますが、フォトコンテストで入賞した作品には、子供達の笑顔が写った写真がありました。そして、癒やしの里山プロジェクトでは、里山の子供達の遊び場「SS」のオープン、学びの里プロジェクトでは、子ども青谿書院塾など、子供達が遊び学べる地域づくりに頑張っています。未来の宿南が住みやすく元気で生き活きとした地域になるためには、今こそ子供達に前向きに取り組む大人の姿を見せていかなければなりません。今活躍すべき地域の皆さんが未来の宿南を作っていく子供達の鏡であるという気持ちを持って、今年一年頑張っていきましょう！

本年も皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願いしつつ、宿南地区の皆さまのご健勝とご多幸を祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

宿南地区自治協議会 会長 維田浩之



身近で見られる植物 ⑳

ヤブツバキ〈ツバキ科〉

新春を迎えました。春の木と言えば、木偏に春と書く「椿」ですね。

一年中緑の葉を付ける常緑樹です。身近な山の中、三谷道沿いにも多く生えています。

今の時期、花の蕾が膨らみ、咲き始めているものもあります。

園芸品種も多く、庭に植えている方もあると思います。

以前紹介したサザンカと同じ科で、よく似ていますが、花の時期や花の散り方が違います。さて、どのように違うのでしょうか？



クリスマス会開催

12月18日（日）福祉部主催のクリスマス会を（49名参加）ふれあいホールで開催しました。今村明美様（朝来市）に手品を披露いただき華景品付きのビンゴゲームで楽しい時間を過ごし最後に年末も近いので消火訓練も行いました。コロナ感染予防のため、今年も飲食をせず、皆様にはお菓子とお弁当をお持ち帰りいただきました。



お知らせ

1月16日（月） 喫茶 ひまわり 新春イベント開催（是非 お越しく下さい）
1月19日（木） 節分 （恵方 南南東やや南）
2月 3日（金）

草庵先生紹介



日記 47



麻疹がはやり塾生が一度に十数人も寝込んだことがあった。看病には草庵と妻が当たった。

宮崎和夫さん作

若い塾生でたちは、元気な時ばかりではない。急に発熱、腹痛などを訴える者もよくいた。

日記の中で、病人が出た最初の記録は次のようなことだ。「検読5人、授読1人、講義は『史略』。昼寝をする。夕方より片山（実家）に行き浴湯。夜になって仲山七郎兵衛（二方郡浜坂村）が急病。急いで帰る。医者が来て診断。塾生が集まり、湯を沸かしたり、薬の世話をしたりして看護する」（弘化4〈1847〉年6月27日）これは青谿書院に移ってから20日ほど経ったころのこと、みんなあわてている。

病人が出ると池田草庵も世話をしているが、主に草庵の妻がその仕事を引き受けていたようだ。塾生たちもあれこれ看病を手伝っている。塾生たちはよく発病している。「塾生1人大発熱。医者呼び看病する」（嘉永元〈48〉年9月19日）「夜中、すでに寝ているときに名尾新太郎（多度津藩士）気分が悪くなる。起きて医者呼ぶ」（安政2〈55〉年8月18日）「塾生1人腹痛。いろんな事があった。（安政5〈58〉年6月25日）」

病人の診察は、妻の兄である國屋松軒（八鹿村）が来て当たることもあった。しかし松軒は遠方のため、たいていは書院の近くに住んでいた医師の三方浩哉が当たった。塾生が何十人もいるのだから、伝染病の時は大変だったろう。1人が発病すると次々と伝染していったようだ。「今日塾生十数人麻疹になり寝かせる」（文久2〈62〉年6月22日）青谿書院の中で一度に十数人も塾生が麻疹にかかっている。草庵は講義どころではなかったのではないか。

「幼い塾生痘瘡になる。体を湯できれいに拭く」（元治2〈65〉年1月11日）ということもあった。草庵は、若者の元気な時も、病気の時も、すべてを引き受けて青谿書院で教育していた。

池田草庵先生に学ぶ会

2022年度 第1回 宿南の魅力発見フォトコンテスト 結果発表

たくさんのご応募ありがとうございました。

宿南地区の皆さんによる投票の結果、上位5点を発表いたします。

第1位



「天空の村から」 多田 英則 さん

いつになく早く目覚めてしまい、散歩しておりましたら、神々しく輝く朝焼けに雲海ヴェールをまとわせたような、素敵な景色は広がっていたのでおもわず写真を撮りました。たまには早起きも良いものですね。

第2位



「逆さ進美山」 西村 正 さん

小学校前の道路と線路との間にある農道は犬の散歩道。稲刈りが終わり翌年の田植えが完了するまでの間、田に水が入ると「逆さ進美山」が出現する。これは12月に撮影。

第3位



「宗恩寺さんといちょうのブーケ」 小栗 愛さん

楽しい企画をありがとうございます。宿南をたくさんまわり写真を撮りました。素敵な写真が撮れたので応募させて頂きました。

第4位



「初冬の青谿書院」 西村 正さん

但馬聖人池田草庵と青谿書院は宿南の誇り。青谿書院はどの季節もいい。これは12月に撮影。書院管理に携わるようになって丸3年。地域の人にはぜひ足を運んでほしい。

第5位



「落葉」 西村 朋也さん

この度は大変お世話になりました。普段写真を撮ることが無い自分の作品が入賞し驚いております。今回の新しい取り組みが地域の活性化につながれば良いと思います。

事務局より 初めての試みにたくさんご応募いただき大変有難うございました。宿南地区内と限定いたしておりましたので被写体探しに苦労されたのではないのでしょうか。改めて作品を通して宿南の魅力が発見できたように思いました。次回開催時にもたくさんの応募をお願いいたします。なお、ご応募いただきました全作品を宿南ふれあい倶楽部に展示しております。是非ご覧ください。